

富士特殊紙業

「FUJII・M・O」にデュポン賞

水性グラビア二度目の栄誉

富士特殊紙業（愛知県瀬戸市、〒465-6105）

水性グラビア印刷技術が改めて、世界的に顕彰された。水性グラビア印刷の活用を大きな特長とする「軟包装用デジタル・グラビアハイブリッド印刷『FUJII・M・O』」がこのほど、第29回デュポンパッケージング賞・シルバー賞受賞の栄誉に輝いたからで、同社はすでに「水性グラビア印刷技術」で2003年の第15回同賞・ゴールド賞も受賞しており、史上まれな二度目の偉業となった。デュポンパッケージング賞は、世界で最も権威ある包装関連の賞として認知されており、老舗コンバーターの二度目の快挙は、高いハードルに挑戦し続けた同社はもちろん、わが国グラビア軟包装業界にとっても、業界的な栄誉・朗報である事情は言うまでもない。

「FUJII・M・O」は、フルカラーのインクジェット印刷と白色水性グラビア印刷を組合わせたハイブリッド印刷。透明プラスチックフィルムに鮮やかなフルカラー印刷と隠蔽性に優れる白色印刷を表現する。この異種印刷方式のハイブリッド化により、白色インク



受賞トロフィーを抱える杉山会長(右)、デュポンのRoger Kant氏・杉山社長(左)

ジェット印刷に伴う課題を解消、軟包装用プラスチックフィルム印刷の実用化にこぎ着けた。グラビア印刷と同等の白の隠蔽性と画像再現性を実現する一方、有機溶剤使用量を95%削減する。もちろん版削減する。もちろん版レスでインクの調色不要なデジタル印刷なら



受賞を祝うKant氏とコラボレイティブ・イノベーション事業を推進した各社

立つ優位性で、グラビア印刷の多品種少量作業への対応、印刷作業の標準化と省人化などを可能とする革新

的な印刷技術として高く評価された。同社が、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ（東京都港区・インク）、ミヤコシ（千葉県習志野市）・インクジェット印刷機、オリエント総業（愛知県春日井市・水性グラビア印刷機）各社と繰り広げたコラボレイティブ・イノベーション事業による成果で、商業稼働はすでに安定軌道が鮮明になっ

ている。フジトクは、「水性グラビア印刷技術」で2003年第15回デュポンパッケージング賞ゴールド賞を受賞しているが、「FUJII・M・O」はその「水性印刷技術」を活用することでインクジェット「白印刷」の課題をブレイクスルー、この実績も今回の受賞につながった。受賞式は、8月1日午後3時から、名古屋市内のデュボンジャパノイノベーションセンターで開催。主催側からRoger Kantデュボンアジアパシフィックマーケティングディレクター、池田正寿執行役員デュボンジャパンイノベーションセンター長、三井・テ

デュボンパッケージング賞は、米国・デュポンの独自審査による国際的なコンペティション。世界の包装業界のバリューチェーン全体にわたるデザイン、素材、技術、生産プロセス、サービスなどにおけるイノベシ

ユボンポリケミカルの館野均代表取締役社長が出席。受賞者としてフジトクの杉山仁朗代表取締役会長、杉山真一郎代表取締役社長、受賞関係者として富士フィルムグローバルグラフィックシステムズの吉田整会長、辻重紀代表取締役社長、ミヤコシの宮腰享代表取締役社長、オリエント総業の原田等代表取締役会長、原田秀典代表取締役社長が参加。関係者はこももフジトクの偉業を称賛、時代的なコラボレイティブ事業の確かな達成を確

認し合った。デュボンパッケージング賞は、米国のデュポンの独自審査による国際的なコンペティション。世界の包装業界のバリューチェーン全体にわたるデザイン、素材、技術、生産プロセス、サービスなどにおけるイノベーションに関する栄誉を顕彰する目的で1986年から開催されている。世界的に権威のある専門家審査団により

①技術的進歩性②社会的責任を伴うパッケージング③より良いユーザー体験の三つの基準により厳正に審査され、現在世界の中で最も権威のある包装関連の賞として認識されている。

「FUJII・M・O」に関しては、来る10月11日開催の包装セミナー「実機」としてのインクジェットデジタルプレス」のなかで、フジトク・川合信行取締役開発部長が、最新の情報も盛り込みながら、立体的な講演を繰り広げます。ご期待下さい